

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本



2025年7月6日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

婚外子の差別表記撤廃を求めて闘う

田中須美子さん 6日(日)=1、3面



田中須美子さん(左)とパートナーの福喜多昇さん

かつて住民票には、事実婚など婚姻届を出さない女性が産んだ子ども(非嫡出子、婚外子)の場合、続き柄欄に「子」と表記されており、法律婚の子(嫡出子)の「長男」「長女」とははっきりと区別されていました。田中須美子さんは事実婚をした後に出産し、この差別的表記を目の当たりにします。

これは憲法14条に反した差別ではないか。そう考えた田中さんは住民

票の表記取り消しを求めて提訴します。行政側も動き、1995年3月に嫡出子、非嫡出子ともに「子」という表記で統一されます。

しかし、田中さんの闘いは続きました。大元である戸籍の表記にも婚外子差別が残っていたからです。活動を始めてから40年。田中さんはなぜそこまで表記にこだわり、闘いを続けてこられたのでしょうか。

そこが聞きたい

スポーツの戦争用語 6日(日)=くらしナビ面



今春に米大リーグなどで話題を集めた新型バット。芯が太く先端が細い形から、米国で「トルピード」(魚雷)と名付けられ、国内では「魚雷バット」と呼ばれました。しかし、それは報道する言葉としてふさわしいのでしょうか。毎日新聞

社には、読者から戦争を想起させるとの意見が寄せられました。

今年で戦後80年。日本新聞協会の用語専門委員である関根健一さん=写真=に、「戦争用語」とどう向き合うべきかを聞きました。



現在の硫黄島全景 摺鉢山(手前)側からの眺め



硫黄島・元島民の帰島問題

6日(日)＝総合面

皆さんは「硫黄島」と聞いて何をイメージしますか。「太平洋戦争の激戦地」「戦後、長く遺骨収集が行われてきた島」……。かつて硫黄島は農業が盛んで豊かな島でしたが、戦後は自衛隊やその関係者だけが常駐し、元島民の帰島は許されてい

ません。しかし今年2月、中野洋昌国土交通相が、帰島を禁じる法的根拠は「ない」と答弁し、元島民の帰島問題がにわかに注目されています。硫黄島を巡る戦後80年の歴史と現在について解説します。

特集 ワイド 「おお振り」作者が語る高校野球

7日(月)=夕刊2面

高校野球漫画「おおきく振りかぶって」は、バッテリーと打者、監督らの心理描写を丹念に積み重ね、20年以上にわたって人気を博してきた作品です。気の早い高校野球ファンにとって

は、そろそろ、夏の甲子園が待ち遠しい時期です。「おお振り」の作者、ひぐちアサさんにインタビューし、高校野球、そしてこの作品の魅力について、たっぷりと語ってもらいました。



竹橋の窓辺から

編集後記



「第27回参院選」は3日に公示され、20日の投票に向けて17日間の舌戦がスタートしました。選挙期間中、政党や立候補者との意見の一致度が見えるインターネット上のサイバー「毎日新聞ポータル・マッチ」をえらばんと提供します。スマホやパソコン、タブレット端末が利用できます。自分の考えがどの政党・候補者と近いのか、質問に答えて楽しみながら確認してみるのはいかがでしょうか。



毎日新聞

(丸山長彦)